

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」

平成 29 年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】PrEP（曝露前予防）の海外の先行事例に関する研究

研究分担者名：谷口俊文（千葉大学医学部附属病院・講師）

研究要旨

海外の PrEP 先行事例の問題点を調査することにより、日本における PrEP 導入に関する妥当性、実現可能性を評価し、日本での PrEP 提供体制に関する提言を行う。

A．研究目的

PrEP の海外先行事例の調査により国内における PrEP の妥当性、実現可能性を評価する。特に経済・医療制度が比較的近い先進国や PrEP 立ち上げ途上のアジア諸国の先行事例を検討することで対象者、有効な提供体制、費用負担に関する具体的な検討を行うことを目的とする。

B．研究方法

現時点で公開された事例の多くは有効率等に関する成功例であり、実際の提供体制等の問題点に関する情報は限られている。また、多くのアジア諸国では導入段階にあり現地で得られる情報は有益である。調査対象国として初年度は、導入段階の問題発掘調査として近隣アジア諸国を、次年度からは PrEP の提供体制の制度的側面も含めた調査として、医療制度・経済規模が類似した英国、豪、米国等を対象とする。対象施設は各国の PrEP 研究主導施設および実施施設で、最終年度に日本における PrEP の提供体制に関する提言を行う。

C．研究結果

予備調査を実施したところ、PrEP を臨床試験も含めて導入している国は 48 ヶ国（2017 年 12 月現在）であり、ガイドラインで PrEP を明記している国は 13 ヶ国に及ぶ。また PrEP に用いるツルバダ配合錠の後発品の使用は発展途上国を中心に 14 カ国で登録されている。ほとんどの国では MSM コホート（Men who have Sex with Men）をターゲットとしている。一方で Serodiscordant couples（HIV 陽性者と陰性者のカップル）も対象となっている国も認

められる。平成 29 年度の PrEP の海外の先行事例調査の対象先として、まずはベトナム国立ハノイ医科大学での PrEP 実施例を 2 月 7 日～9 日に調査訪問した。ハノイでは PrEP が開始されて間もないが MSM コホートを対象としていることや PrEP 対象者の選定などを学ぶことができた。また、3 月 4 日～7 日に米国ボストンで開催される Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections (CROI) での最新の PrEP に関する研究知見の情報収集および研究者との意見交換を行った。

D．考察

日本で PrEP を導入するにあたっては、医療体制が日本と類似して整っている欧米の事例を検証することが重要だと思われる。ただし WHO 等が提案している PrEP implementation tool 等はどこでも基本骨格は変わらないので、まずはアジアを中心に導入段階の問題発掘調査を行い、欧米豪に広げていくこととする。

E．結論

PrEP は海外で加速的に導入されており、高リスク群をターゲットにすれば有効に HIV を予防できると認識されている。日本においても早期導入およびガイドラインの整備が必要である。

G．研究発表、H．知的財産権の出願・登録状況なし